

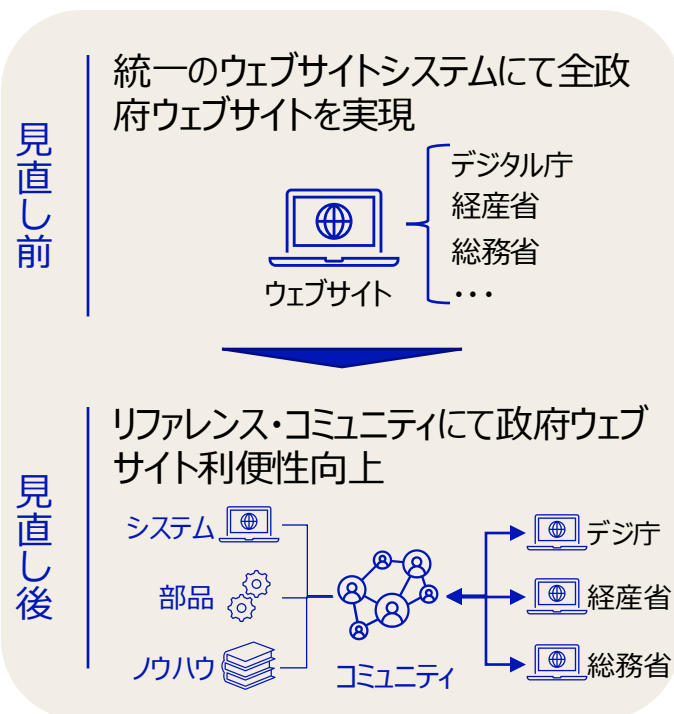
政府ウェブサイトの情報発信力強化に向けた取組について

令和7年8月4日 デジタル庁

標準化・統一化から情報発信力の向上へ

当初は、イギリスのGOV.UKのような統一された政府ウェブサイトを構築する構想であったところ、令和5年度**政策評価・行政事業レビュー**において、**有識者から意見**を踏まえ、から「**コミュニティを活用したリファレンス**」の展開による政府ウェブサイトの情報発信力向上支援へ**方針を見直し**。

これまでの事業の方向性



有識者コメントまとめ

1. 政策目的

- 左記アプローチに合わせ重点計画に記載の「標準化・統一化」の見直し

2. 目標設定

- 目的に合わせた目標設定・見直し

3. アプローチ

- 標準ガイドライン群の整備・位置付け整理
- 伴走型支援も視野

4. 体制

- 体制強化 or 体制に合う事業内容を検討

5. ステークホルダ

- 各府省との連携は既存の仕組みを活用 or 配慮

今後の主な対応

重点計画の見直し

Before : 「標準化・統一化」

After : 「発信力向上に関する取組」

へ見直し、合わせて見直し後の内容へ修正

事業の方向性の磨き上げ

目標設定



達成状況を把握しやすい目標設定

アプローチ強化

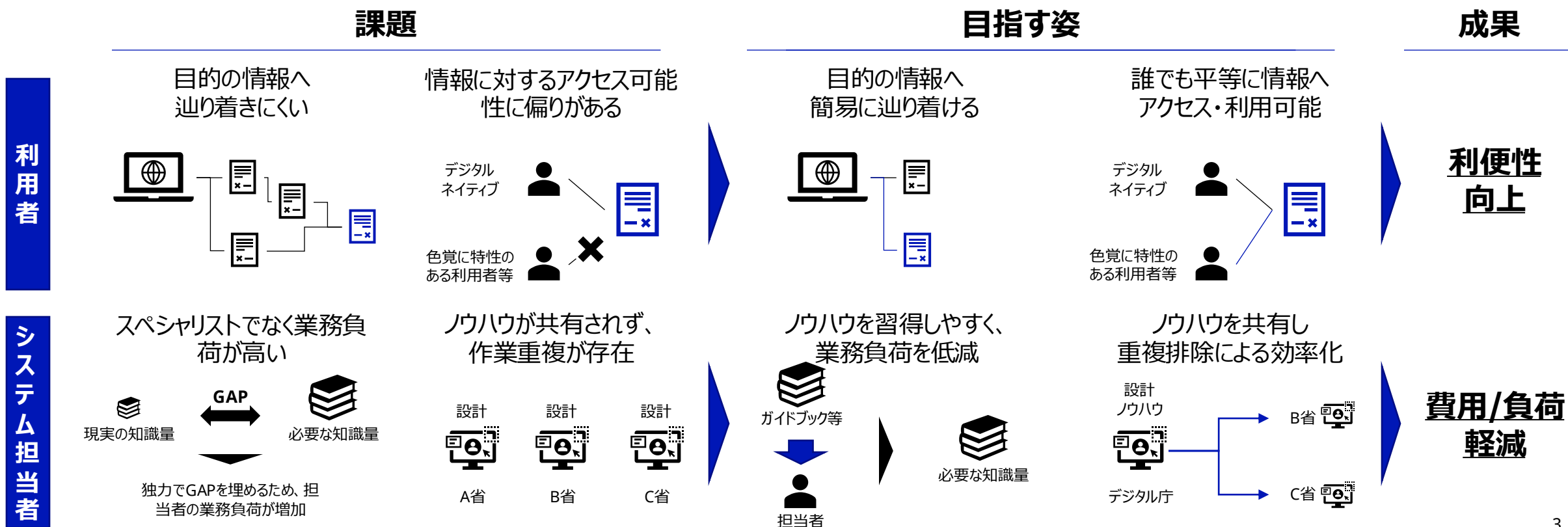


目的達成に向け、新しいアプローチも視野に検討

はじめに

方針

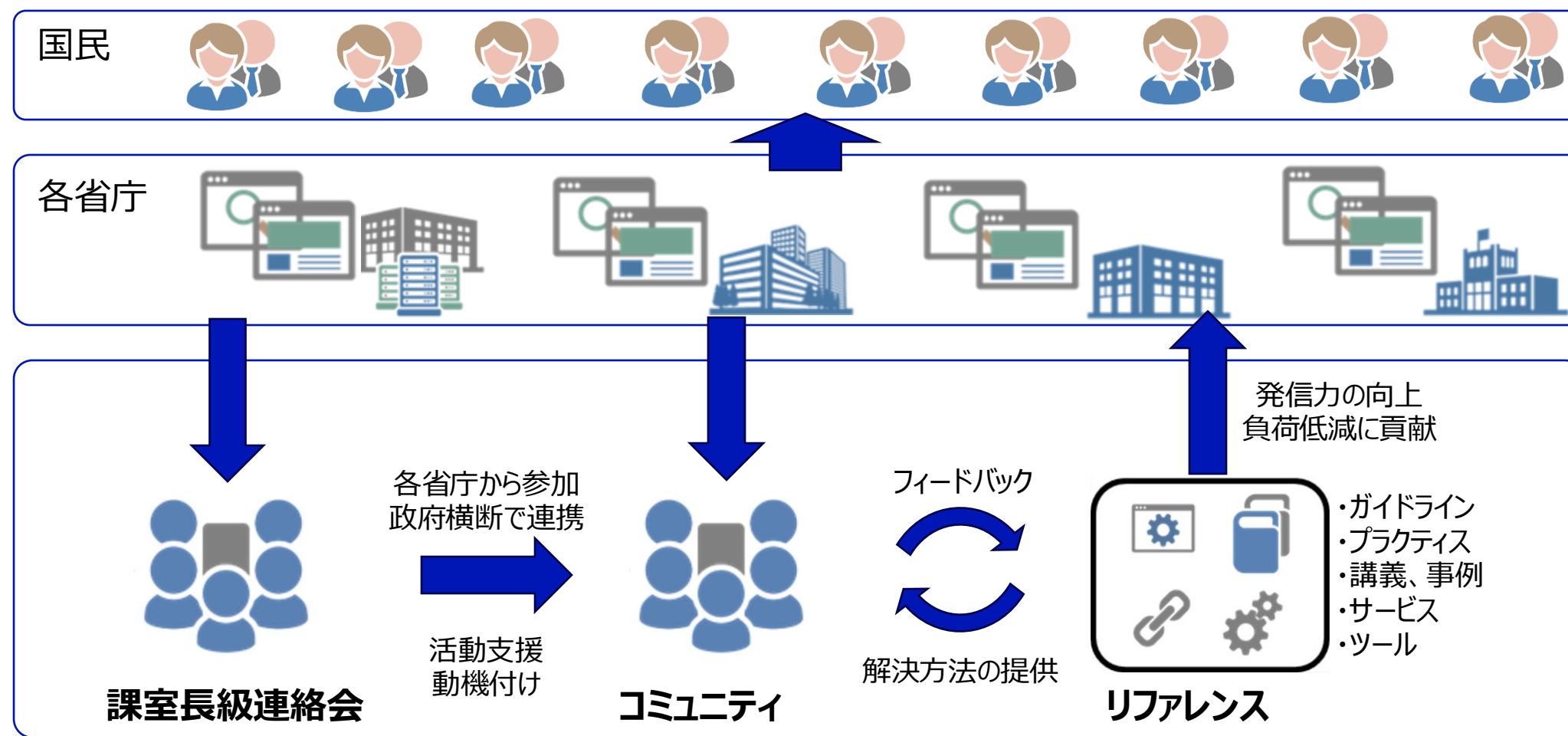
各府省庁でバラバラに構築された政府ウェブサイトに対し、**利用者視点で利便性向上、システム担当者視点で費用/負荷軽減**を目指す。



はじめに

施策の全体像

「課室長級連絡会」「コミュニティ」「リファレンス」の3本柱で、政府ウェブサイトの関係者全体で**利用利便性向上、担当者視点の費用/負荷軽減**を目指す。



共通課題に対する施策

全府省庁ウェブサイトの担当者を対象にアンケート調査を実施し、最新の運用状況を整理するとともに、**5つの課題を確認**した。

今後、これらの課題の解消に向けて、**次の5つの施策を展開**し、デジタル庁から各府省庁に向けて、コミュニティ活動等を通じた、**情報支援や技術支援、府省庁間の情報交換等**に取り組む。

課題1：企画立案や調達仕様書の作成

課題2：利用者のフィードバックやアクセス解析を活用した改善

課題3：アクセシビリティの対応

課題4：運用体制、予算

課題5：共通CMS導入における支援体制

施策1：共通機能 の整備

施策2：共通基盤 の整備

施策3：実践手法 の整備

施策4：標準ガイドライン の整備

施策5：各府省庁への支援

施策1：共通機能 の整備

各府省庁のウェブサイト運用を支援するため、CMSに依存しない形で、**共通して利用できる機能を整備・提供**する。**アクセシビリティ**確保や**発信力**の向上に加え、**業務負荷の軽減**や**継続的な改善**を可能にするための運用基盤の構築を目指す。

サイト統計



「Matomo」というOSSを用いたサイト統計環境を提供。府省庁のウェブサイト Javascriptのコードを埋め込むことで、アクセス状況が自動的にサイト統計サーバに蓄積される。

リンク切れチェック



インターネットアクセス可能なサイト上のリンク切れをチェック。結果はCSV形式でダウンロード可能。サイトマップXMLとの比較により浮遊ページも検出可能。

ユーザーレビュー (満足度評価)



任意のサイトに組み込み可能なフィードバックフォームテンプレート (HTML)と、投稿内容を表示・分析できるダッシュボード環境を提供。

アクセシビリティ チェック



インターネットアクセス可能なサイト上のアクセシビリティ問題を検出。結果はCSVにてダウンロード可能。チェックツールはaxe-coreというOSSを利用。

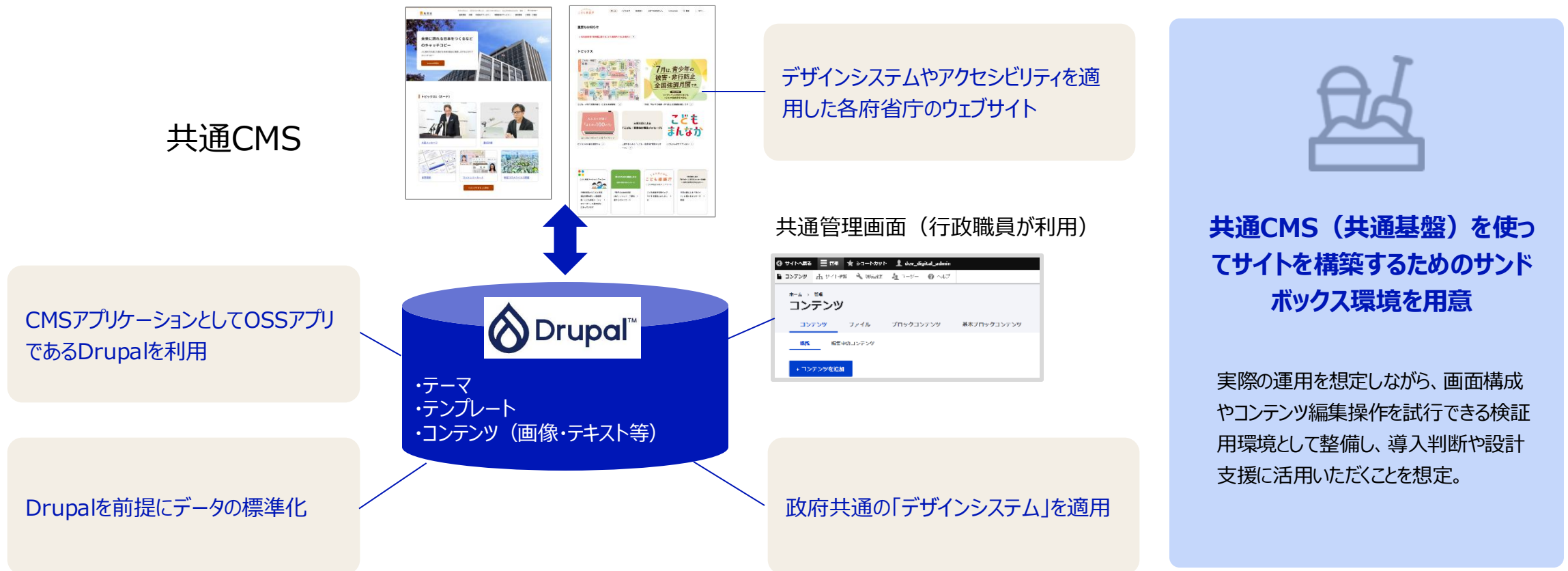
サイト内検索 (検討中)



OpenSearch等を活用し、アクセシビリティに配慮した汎用的なサイト内検索機能を開発し、各府省庁のウェブサイト向けに提供する。

施策2：共通基盤の整備

各府省庁に展開・再利用できることを想定した**共通CMS**を整備。オープンソースであるDrupalをベースに、**政府のウェブサイト**に要求され得る機能を備えている。**システム構築・運用等に係る費用や運用担当者の負荷軽減**に繋がることを目指す。



共通CMSについて、長期間にわたるウェブサイトの運用に鑑みると品質水準を担保しやすく、移植性が高い。

観点	特徴	備考
機能性	オープンソースCMSをベースに開発し基本的な機能は充足	必要な機能について、開発は可能
性能効率	クラウドにより負荷に合わせて柔軟にスケール	マネージドサービスへ対応し、ガバメントクラウドへ移行済み
互換性	API接続等でCMSに依存しないデータ連携も可能	
使用性 (実務者)	Markdown形式でコンテンツを作成しており、コンテンツと表現を分離	Markdown形式への理解が必要 ※慣れれば容易
使用性 (利用者)	アクセシビリティファーストであるデザインシステムとの親和性が高い	
信頼性	(条件次第) 無停止でのリリースが可能	運用停止時間を短縮
セキュリティ	- ガバメントクラウドのセキュリティを標準対応 - CMSはコミュニティのルールでセキュリティ対応も十分に対応	ガバメントクラウドを利用しない場合、同レベルの実装にはコストがかかる
保守性	- ビッグコミュニティにて継続的にメンテ - 日本では扱える事業者が多くない	
データの 再利用性	- データを自由にエクスポート可能 - コンテンツもMarkdownで移植が容易	
ライセンス料等	オープンソースのためライセンス料は不要	初期構築、データ移行、運用保守（及びガバメントクラウド）費用は必要

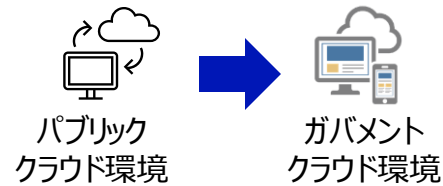
施策3：実践手法 の整備

各府省庁がウェブサイトを目滑かつ効果的に運用・改善できるよう、**調達仕様書のひな型提供**や**ガバメントクラウドへの移行支援**、**サイト改善手法のレクチャー**や**アクセシビリティ対応の手法**、**旧サイトのアーカイブ方法**、**コンテンツ管理のノウハウ**など、実践的な手法や知見を整備・共有する。これらの知見は、**各府省庁が直面する課題への対応力を高める**とともに、属人的な対応や個別最適化を避け、政府全体としての**業務効率やサービス品質の向上につなげていく**ことを目指す。

例)



調達仕様書ひな型の提供
記述方法支援



ガバメントクラウドへの移行
ノウハウ



サイト改善の手法



旧サイトのアーカイブ方法

施策4：標準ガイドラインの整備

各府省庁のウェブサイト構築・改善の実務における拠り所となるよう、**ウェブサイトに関連する3種類の標準ガイドライン**を整備予定。あわせて、現場での活用を具体的に支援する**実践ガイドブックや参考資料も段階的に整備**する。

整備予定の文書

標準ガイドライン（Normative）

- DS-680.1 ウェブサイトガイドライン
- DS-680.2 ウェブコンテンツガイドライン
- DS-670 ユーザビリティガイドライン

実践ガイドブック（Informative）

- DS-671.2 ユーザビリティ導入ガイドブック
- DS-671.1 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック
- DS-675.1 UIチェックリスト

標準ガイドライン群の整備によって期待されること

1.利用者視点の導入

利用者像を踏まえ、必要情報を的確に設計。属人的判断を抑制し設計の一貫性を向上。

2. デザインシステムの採用

共通ルールを適用し、一貫性のある使いやすさを実現。現場の実装負担も軽減。

3.アクセシビリティの確保

多様な利用環境に対応し、誰でも使える設計に。公共性と公平性を高める。

4. 使い勝手の向上

統制の取れたデザインと操作性により、誰もが迷わず使える快適な体験を実現。

5.継続的な改善サイクルの定着

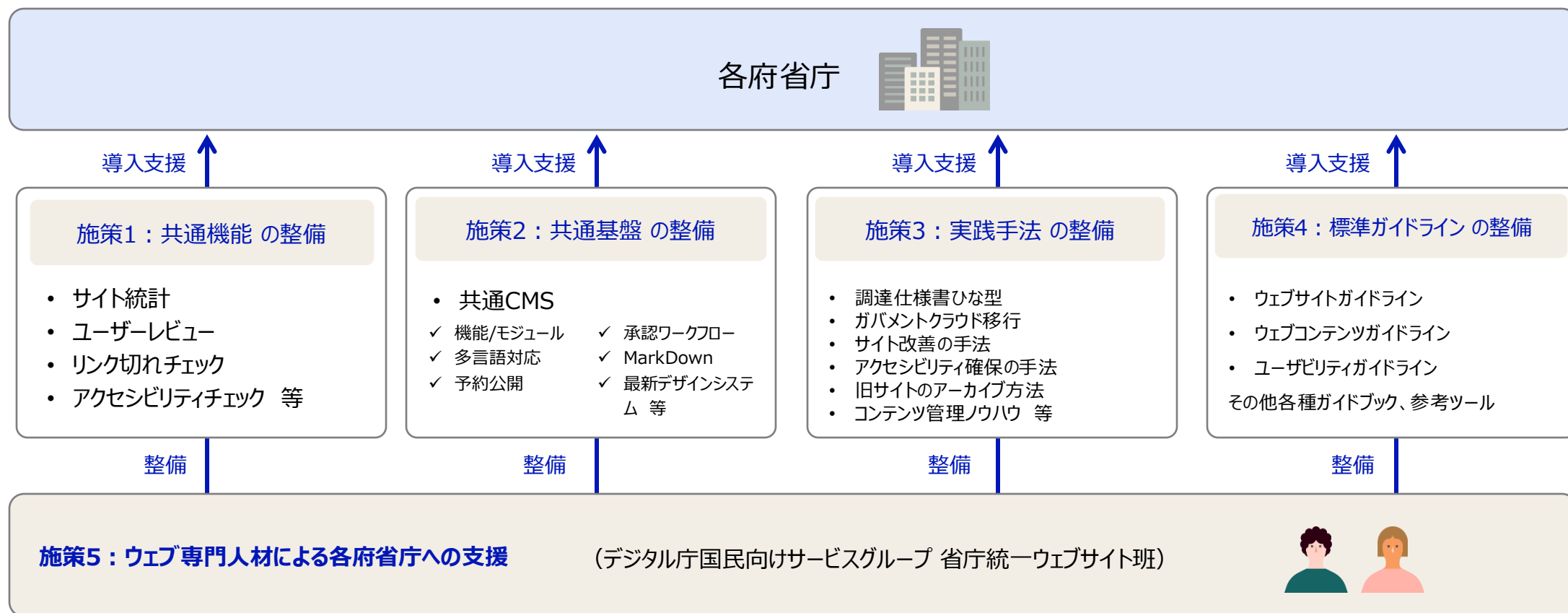
ユーザーレビューやアクセス解析を活用し、実データに基づく改善を継続。

6.コンテンツの信頼性向上

ライフサイクル管理を通じて、陳腐化や重複を防ぎ、正確で最新の情報を提供。

施策5：ウェブ専門人材による各府省庁への支援

デジタル庁の専門人材が各府省庁を支援し、ウェブサイト改善の取組を現場で着実に進める。施策1～施策4の活用を促しつつ、構造的な課題の解消や改善の定着を後押しし、**再現性が高く、使いやすい、ウェブサイトの実現**を目指す。



デジタル庁
Digital Agency